

令和4年度(2022年度)第1回 函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

■ 日 時

令和5年(2023年)1月27日(金) 14:00～15:00

■ 場 所

函館市役所 8階第2会議室(東雲町4番13号)

■ 議 事

1 開会

2 新たに就任した委員の紹介

3 副会長の選出

4 報告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

5 その他

6 閉会

■ 配布資料

資料「函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」

■ 出席委員(9名)

阿知波委員, 池田委員, 河合委員, 川上委員, 齊藤委員, 三田委員, 四戸委員, 能川委員, 林委員

■ 傍 聴

1名

■ 報道機関

1名(函館新聞社)

■ 市職員(事務局)

保健福祉部地域包括ケア推進課 小棚木課長, 岩島主査, 石黒主任

■ 会議要旨

1 開会

2 新たに就任した委員の紹介

3 副会長の選出

岩島主査

前副会長の解任に伴い、新たな副会長の選出をしたい。

副会長の選出については、「函館市地域支え合い推進協議体設置要綱」第6条第3項の規定により会長が指名することとなっているので、池田会長から指名をお願いしたい。

池田会長

それでは、副会長は四戸委員をお願いしたい。

四戸副会長

よろしく申し上げます。

4 報告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

池田会長

それでは、「4 報告 函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」について、第1層生活支援コーディネーターの齊藤委員から説明願いたい。

齊藤委員

(資料「函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」に基づき説明)

池田会長

ただいまの説明について、質問等はあるか。能川委員はいかがか。

能川委員

特にない。実態が理解できた。

池田会長

実態把握をしながら課題を見つけてきたところだが、これから課題解決に向けての動きが出てくるのか。

齊藤委員

はい。その課題解決に向けてのご助言をいただきたいと思う。

池田会長

では、質問等はないということなので、次に、皆様からご助言をいただきたい内容になるが、まず、「現状について」、齊藤委員は色々なところに出向き、現状についてまとめているが、それぞれの立場で意見があればお願いしたい。

岩島主査

先に、現状について齊藤委員の方から説明があるので、その後で皆様から意見ををお願いしたい。

齊藤委員

皆にヒアリングさせていただいた中で、特に現状について、高齢化や奉仕が少なくなっているなど、私たちが捉えた事で補足などがあれば教えていただきたい。阿知波委員、いかがか。

阿知波委員

第1層生活支援コーディネーターの齊藤委員におかれては、年度途中で過去の経過もあまり分からない中、よく調べていただきありがとうございます。

私は、これまで半数以上の委員が入れ替わっていく中、数少ない当初から委員として関わらせてもらっているメンバーだが、始めはどういう絵を描くかわからない中で、この地域支え合い協議体も試行錯誤しながらやってきた。

また、私どもの社会福祉協議会は、くらしのサポーター養成研修という、地域支え合いの人材養成について主に関わらせていただいていたが、今思うとくらしのサポーターについて、分からないなりに皆で考え、居場所づくりということをテーマにしながら行ってきたが、居場所づくりだけではないとの思いもあり、地域の色々な対象を支え合い、助け合うボランティアと考えた時に、このまま進めていくよりは、皆の意見を聞いてもっと良いものにできればと思う。

今の状況としては、他都市は色々進んでいるが、函館市もこれまで積み上げてきたものがあるので、私としてはせっかくの機会なので、現状や今後について自由に話し合い、皆でどのように進めるのが一番良いのか考える良い機会だと思っている。

その中で、〇〇会はどのようなものなのか、といったことを共有することもとても大事なことでないかと思う。

あと、報告の中で、第2層協議体の活動が進んでいるということであったが、第2層協議体は10カ所あり、それぞれ温度差があると思うので、一度に10カ所を動かすのは非常に難しいことと思われるので、そのやり方も相談しながら、皆で協力しながらということが必要なのではないか。

この協議体では、くらしのサポーターのことも多く取り上げてくださったが、訪問Aや通所Cにも連動してくるので、全体を掴むのが、ずっといながらもすごく難しい会議だなと感じているところである。

齊藤委員

色々な課題も含め、皆の意見をいただきながらより良いものにしていきたいので、今後もよろしくお願ひしたい。

齊藤委員

包括支援センター連絡協議会の四戸委員にも現状についてお聞きしたい。

四戸副会長

第2層コーディネーターである包括支援センターの活動をとてもよくヒアリングしている。

先ほども話にあったが、10カ所の包括支援センターが、それぞれ第2層生活支援コーディネーター業務を行っており、それぞれの地域で地域課題の解決に向けて地域ケア会議等を行い、住民主体の助け合い活動等の創出をしている。

例えば私の西部圏域は、古くからある地域なので今も地縁の力があり、ちょっとした生活の困り事のニーズは地縁の力で解決できている部分がまだまだあり、そこにボランティアが手伝いに入ると言っても、全然知らない人を家に入れるのは嫌だというところがある。

どのセンターにおいても、個のニーズに対して対応は行っており、個のニーズの積み重ねが圏域のニーズとなっているところであり、第1層生活支援コーディネーターは全部の圏域を見て、それぞれのニーズを拾って行かなければならないと思う。

去年、一昨年は、コロナ禍でせっかく色々やりたくて地域等に働きかけても、予定していた活動が急に中止になったりすることもあったが、ようやく今年度から、町会活動や包括支援センターの活動が再開できているところがある。

コロナ禍でも、少人数で集まるとか、感染者数が少ないタイミングで開催するなどの工夫をし、これからも第2層コーディネーターとして活動を継続していきたいと思う。

齊藤委員

圏域ごとに課題が違うが、第1層生活支援コーディネーターは函館市全体への対応なので、まずは需要をヒアリングした中で、市全体の課題を整理していく方法があると考えている。

現在、函館市で介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を行っているところなので、その結果を参考にしながら、函館市の課題を整理していくのが良いかと思う。

そのうえで、どのように供給する側のボランティアを養成していくかを第2層生活支援コーディネーターやこの協議体と協議しながら行っていきたいと思う。

もしよければ、需要の調査について、このような方法があるとかといった意見があれば教えていただきたい。支える側についての意見でも構わない。

四戸副会長

支える側の意見になるが、私の圏域は高齢化率が高く、元気な高齢者もたくさんいるが、先

ほどの説明にもあったように、町会長が民生委員も行っていたり、役割を重複している方が多く、もうこれ以上の役割は難しいと言われる方がいる一方、町会によっては若い世代が町会の役員を担っていたりするところもある。

若い町会長だと役員も皆若く、町会行事も今までと違う形で行っていたりするので、もっと若い町会長に働きかけがあっても良いと思う。

あと、高校や大学等の学生ボランティアということで、学校とつながるといったところが一つあるかと思う。

池田会長

河合委員は需要の調査についていかがか。

河合委員

ケアマネジャーの立場としては、担当する高齢者の個々のニーズを把握する中で、こういった支援があったらいいなと常々感じていることがあるので、ケアマネジャーにアンケートを取ってもよいのではないかと思う。

需要の調査の意見から少々外れるかもしれないが、今話している内容だと、支える側の取り組みはたくさんあるが、支え合いということを考えて時、こういうことをしたいと思っている看護学生にもメリットではないが、例えば高齢者が学生の人生相談にのるなどして支え合うといった、一方通行ではない取り組みを検討してもよいのではないか。

池田会長

今まで需要調査をしたことがあるか。

河合委員

今までしたことはない。それぞれが皆、こういう問題があると抱えていて、集まった場で共有はするが、それを調査したことはないので、そのような方法も良いかと思う。

池田会長

川上委員、町会連合会では需要調査をしたことがあるか。

川上委員

全くない。要望された時に協力している。

池田会長

どのような要望があるのか。

川上委員

これは自主的だが、包括支援センターこん中央とミーティングを重ねている。

いつも言うことだが、民生児童委員は民生児童委員、在宅福祉委員会は在宅福祉委員会、社会福祉協議会は社会福祉協議会と、自分たちのセクションにこだわり過ぎて、意思の疎通が少し悪いと感じるので、何とか解決できないかと機会があるごとに申し上げてきている。

たまたま私たちにできることは、町会はある程度の浄財で賄っている組織なので、金銭が関わる部分が出てくると、町会がイニシアチブをとって行う場面がすごく出てくる。

旭町では、在宅福祉を一生懸命やっているのだから、今回我々にすれば福祉拠点としての10カ所の包括支援センターにすごく期待し、地域に対してどのような還元がくるのかと期待していたが、逆に我々の方から働きかけないとだめだと思った。

三田委員

需要調査と言うことで、私の住む地域の担当は包括支援センター亀田になるが、その職員が非常に細かく高齢者宅を訪問して歩いている。

地域の実態を掴むのに、現場の方が実際に面談して歩くことが一番の生の声として支援体制に繋がってくると思うが、少ない職員で広い昭和町会をまかなえるのかと感じた。

また、包括支援センターについて、私も民生委員をやるようになって分かった程度であり、まだまだ地域のお年寄りには、包括支援センターが何をやっているところなのか分かっていない感じがあるので、もっとPRが必要かと思う。

池田会長

少し話がずれたが、需要調査を色々な所で行っていると思ったが、市では行っていないのか。

小棚木課長

計画の時にニーズ調査的なことは行っており、居宅支援事業所に質問をさせていただいたことはある。

おそらくその計画でのニーズ調査のパーツを参考にとということでやってきたが、具体的な、例えば看護学生について何に参加したいかとの相談に対し、健康づくりといった細かいところの拾い集め、ニーズというところまではできていると言えないので、そこを細かく汲み取っていただくような作業が、皆様のそれぞれのフィールドでご発言いただくような趣旨なのかと思う。

池田会長

需要調査は大事なことであり、今後は精査しながら第1層生活支援コーディネーターが行っていく形になると思うので、色々な所にアンケートを行うとか、需要調査の発掘をした方がいいと思う。

齊藤委員

そのように言っていただくと、アクションを起こしやすくなるのでありがたい。

池田会長

ここにいる方々は皆、協力してくれると思う。

色々なところにアンケートを行い、ニーズを拾いまとめていくことは、函館市にとっても絶対にプラスになると思うので、まずはやっていただきたい。

齊藤委員

はい。

5 その他

池田会長

ほかに何かあるか。

全委員

なし。

池田会長

それでは、皆様から意見が出たが、今いただいた意見を基に活動を進めていただきたい。
以上で今日の協議を終了する。では、進行を事務局にお返しする。

6 閉会

岩島主査

次回の協議体については、開催の目途が立ったら委員の皆様にご日程をお知らせするので、よろしくお願ひしたい。

これをもって、令和4年度第1回函館市地域支え合い推進協議体会議を終了する。